

令和 8 年度第 2 回広島観光立県推進会議 議事録

- 1 日 時 令和 8 年 7 月 31 日（金）16:00～17:00
- 2 場 所 広島市中区基町 10 番 52 号
広島県庁北館 2 階 第 1 会議室及び web
- 3 出席委員 別紙のとおり
- 4 議 題 次期ひろしま観光立県推進基本計画骨子案作成に向けた検討について
- 5 担当部署 広島県商工労働局観光課観光戦略推進グループ
TEL（082）249－7797（ダイヤルイン）

6 会議の内容

（事務局）

『次期ひろしま観光立県推進基本計画骨子案作成に向けた検討資料』について説明

（会長）

- 今、事務局から説明があった次期ひろしま観光立県推進基本計画骨子案の検討にあたっての考え方やねらいに関して、ワーキング部会での議論について補足いただきたい。

（委員）

- 現計画では、広島県として、どのような観光地の姿を目指すのかという視点から、計画が主に立案されていたが、広島県において、ある程度、観光振興が進んできているところ。次のフェーズとして改めて広島県にとって観光産業を育てる意味、そして観光が広島県の経済を支える産業の一つになるとは、どういう状態を目指すのかを定義して、それを広島県の目指す姿とさせていただいた。その姿を起点に、それを実現するための数値及び実現した場合の状態を数値で表しているという形になっている。
- さらにそれを達成するための手段として、量から質への転換を図って、一人当たりの観光消費額の増加を図るということに焦点を特に当てていきたいということで考え方がまとまっている。
- 一人当たりの観光消費額を増加させるための戦略を立てるにあたっては、プロダクトアウトの考え方ではなく、マーケットイン的な考え方、つまり観光客の視点から考えていく形を取っている。したがって、実際の戦略立案については、観光客の行動、多様な観光客のニーズの分析などを行った上で、戦略を立案して、詳細の目標や KPI など今後設定していく予定。

（委員）

- 部会の意見を受けて、地域の観光関連産業における雇用創出や所得の向上、または地域住民の生活環境の向上ということが明記されたことは大変にありがたいと受け止めている。
- 観光消費額の目標は、中間指標として位置付け、その上位に目指す状態を考えていただきたい。観

光消費額 9,000 億円は重要な目標であり、目標値自体に異論はない。ただし、消費額の増加自体が最終目的ではないと考えている。観光消費額が増えた結果として、県内の事業者の利益や従業員の所得が増え、また地域内での調達が進み、その収益が地域資源の保全や生活環境の向上に再投資されて、初めて観光が県経済を支える産業になったと言えるのではないかと。したがって、観光消費額は重要な中間指標と位置付け、その上位に県内付加価値、所得、雇用、地域内調達、県民生活への効果といった目指す状態を置いていただきたい。これらの数値がすぐ取れないということであれば、計画期間の初期に基準値を把握すること自体を計画上の取組として位置付けていただきたい。

- 顧客の声の把握をぜひとも施策立案の前提として、計画に明記をしていただきたい。顧客の声を単に既存調査を参考にするという扱いではなく、施策を作る前提として位置付けていただきたい。今回の資料にも施策が並んでいるが、誰のどのような課題を解決するための施策なのかが分からなければ、再び供給者の発想に陥る可能性がある。実際の旅行者になぜ広島を選んだのか、何に価値を感じたのか、なぜ宿泊したのか、しなかったのか、何があればもう一泊したのかを直接聞き、顧客と消費構造を把握した上で施策を選ぶという順序を、計画に明確に書いていただきたい。実際の顧客の選択理由や価値認識を把握する調査を呉地区などで始めており、供給側の想定とはかなり異なる示唆を得られている状況。得られた知見は計画づくりに必要に応じて提供してまいりたい。
- 高付加価値の意味の明確化をぜひともお願いしたい。骨子の柱である「もっといたい」を中心に高付加価値の観光コンテンツの充実が掲げられたところであるが、高付加価値の意味をぜひとも明確にしていきたい。高付加価値とは単に価格の高い商品を作ることや富裕層を誘致するというのではないはず。来訪者に地域の価値を御理解いただき、適正な対価をお支払いいただき、その対価が地域の事業者、人材、地域資源の保全に還元されることと考えている。ターゲットについても欧米豪、アジア、首都圏といった発地だけでなく、価値観、旅行目的、行動、再訪可能性などを含めて考える必要がある。地域によっては、遠方の富裕層よりも近隣から継続的に訪れただけのお客様の方が地域経済の安定に寄与する場合もある。

(会長)

- 確かにおっしゃるとおり、顧客の声を最初に出発点にしていかないといけないということと、何を目的としていくのかというところを議論をしつつ、実行性が上がる政策につなげていくために、そのあたりをブラッシュアップしていくことが必要かと思う。

(委員)

- データ分析をすると、肌感覚では御承知のとおり、平和公園と宮島に行き帰ることがデータ的にも明確になって、広島が一番の課題ではないかと思う。そういった意味では、今回の「もっといたい」というところで、観光消費額を上げていくということは、大切なポイントであると思う。
- 広島県全域の強みというと、平和と、瀬戸内海の島々の海の美しさということだと思う。これから伸びていくのはインバウンドかと思うので、インバウンドの高付加価値を大切にされるお客様をターゲットとして、広島、宮島だけではなく、瀬戸内海を一つのターゲットにした観点を取り入れていただくと非常にありがたい。
- 今回、資料を見ると、どんな状態を目指すのかについて、いきなり消費額になっているため、もう少し具体的に明確化された方がよい。
- 特に、副首都を目指すという話もあったので、観光消費額のランクが全国で 15 番目ってことなので、5 年間の取組としては、観光消費額 9,000 億円というところで、金額としてはおそらく妥当かと

思うが、その後を考えると、もっと上位を目指していくのは一つかと思う。

- 観光消費額で目指す時に、観光庁の調査の数字と、今示されている数字が違うので、このあたりもどちらの数字でいくのかどうか、検討していただければ。
- 目指す姿で、仮に「もっといたい、また来たい」とあるが、ある程度重点化したメッセージにして伝えた方がよいのではないかと思う。「もっといたい」人は、「また来たい」と思うと思うので、「もっといたい」に重点化させた、そういうメッセージとした方がよいかと思う。

(会長)

- いずれも、大変重要なポイントかと思う。重点化したメッセージにした方がいいというのは、確かに皆さんが同じ方向を向いて、ということなのであれば、そういった方向性が重要なかと思う。
- 観光消費額の数字が観光庁調査と県調査の数字が異なっているが、本県では、県内事業者の協力を得て、計測していることから、実態に近いのは県調査かと思うため、県で今まで計測してきたものをベースにしていくことを考えている。
- 広島も一定程度の大きな都市で人口規模があるので、しっかりと活性化することを目指していかなければいけないのだろうと考えているので、そういった面も含めて、議論していければと思う。

(委員)

- 高付加価値の意味の明確化が非常に重要なポイントだと思う。学生に、「高付加価値観光とは何ですか」と聞くと、外国人の学生の一人は、それは観光客がより価値の高い経験ができることだというすごくプラスにとって、日本人の学生はそれが富裕層のための施設ばかり整備されて、私たちが行けなくなることだと、マイナスに捉られてしまっていた。富裕層の外国人が行く場所になってしまって、日本人が行けなくなるなどの印象を与えないように非常に注意することが必要かと思う。
- 地方のホテルの労働力となっている外国人、特に研修生は、非常に立場が不安定な雇用状況で働いている人たちが多く。国の政策としては、今、外国人に対して非常に条件を厳しくしている。観光を産業としてもっと発展させたいなら、様々な国の人が働かないと、様々な国から来る多くの人への対応もできない。そもそも地方で働いてくれる人がいない中、外国人観光客は増やすが外国人の住む人はいないといった政策は無理があり、方向性としては非常に観光の発展にも制限になってしまうのではないかと思う。
- 地方に分散させるための大きな鍵は二次交通であって、芸備線であったりとか、島に渡る船であったりとか、そういう魅力的な二次交通があれば、もっと発展していくのではないかと思う。

(会長)

- 高付加価値という言葉の意味とか、どのように捉えられるかということ、気をつけなければいけないというのは確かにそのとおり。富裕層向けと一般向けは、ある意味、観光施策を考える上ではどちらも考えていかなければいけないかと思うので、しっかりと仕分け、定義をした上で、何をやっていくのか検討していくということが重要。
- 働く外国の方と外国人観光客の関係も確かに、おっしゃるとおりだと思うので、そこの受け入れる側の産業構造としてどうしていくのかを含めて、提示できればと思う。
- 外国からのインバウンドもちろん大事であるが、やはり近くの人たちが普通に行けるとか、二次交通の話もあるが、生活交通で使っているところを観光客の方も使うことによって、その交通が成り立っていくとか、そういった視点も大変重要かと思う。

(委員)

- 広島県は、全国の中でも地域の中で大変珍しく、全国通訳案内士、地域通訳案内士が、それぞれ 250 名以上いて、インバウンドのお客様に、しっかりとした広島を説明できる人材、寄り添える人材がたくさんいるところである。
- インバウンドのお客様と日本人のお客様と 二つの別の道があるのではないと思っている。環境やユニバーサルツーリズム等、欧米豪の方が高い関心を示すものに、アジアのお客様も、そして日本人のお客様もそちらに向かっていくように思う。
- 広島には、電車やフェリーといった魅力的な多彩な交通手段がある。食も、鉄板焼、お好み焼を始め、和食も人気である。そのような中、ここを強調したらいいのではないかとと思っているのは、「泉質の良い温泉が多いなどの温泉地としてのポテンシャルの高さ」である。広島はとても泉質が良いと、水の専門家の先生から聞いたことがあるが、日本人も外国人も広島には温泉がないという認識だと思う。このため、実は広島は、すばらしい温泉が、湯来や江田島、大崎上島にあると発信していくべきではないか。
- 二次交通がとても大事であり、生活交通を観光と組み合わせていくことが重要ではないかと思う。例えば、萩や境港では、小さな巡回バスが、病院にも回るし、史跡も回っている。

(会長)

- おっしゃるとおり、あまり温泉のことで PR はしてなかったのかと思うので、目を向けていければと思う。
- 生活交通の観光客利用は、大変重要だと思う。交通でいうと、島に行く航路も赤字が多くなってきているというところがあり、バスに関しても同じだと思うが、外から来た人にバスの生活交通をもう少しわかりやすく示していくことも重要であると、指摘を受けて思ったところ。

(委員)

- 部会の時に、どのような状態を目指すのかという目標値について、いろいろ議論が出ていて、先ほどお話にあったように雇用だとか、そういったところまで入れていくのかとか、どの程度まで入れるのか、御意見をいただきたい。
- 観光産業としてということになると、どこまで経済波及効果を言うのか、そのあたり、皆様から御意見をいただきたい。観光消費額はいいと思うが、その状態を何で表すのか。観光人材の雇用を増やす、その程度まで入れていくかというところを議論したい。

(会長)

- 関係している業種もたくさんあると思うが、この観光消費額を集計するに当たって、何を拾っているかによって、業種がある程度特定できるのか。

(委員)

- 今、観光消費額の積算は、国の方でも、県の方でも、大変苦心している。客観的な数字として、うまく説明できるかということ、非常に難しい。要するにアンケート調査によるものであり、市町ごとに主な観光地点での売上高をもとに積算をしているところもあれば、インタビュー調査をされて、宿泊費、交通費、それから飲食費などに分けて、今回の旅行でどのくらい使いましたかと聞かれてたりす

るので、全てを細かく区分するのがなかなか難しい状態。

- それを補完するために、この調査とはまた別に、インタビュー調査も四半期ごとに実施し、どんなものにどのくらい使ったかのデータをとっている。波及するところは非常に多いが、旅行利用した費用ということしか聞いていないので、例えば、お土産や飲食費、宿泊費、交通費などは大体わかるが、今、旅のきっかけや目的は非常に多様化しているため、全てを掴んで把握するというのは非常に厳しいというのが実情。

(会長)

- 今、観光消費額の中に入っているのは、宿泊費と交通費、お土産の購入費だったり、三つ、四つぐらいは特定はできるのか。

(委員)

- 消費額の調査の内訳というよりは、その参考値としてパラメーター調査により、何パーセントぐらいを占めているということは出せるかと思う。

(委員)

- 金額とか経済効果を出すのは非常に難しくて、しかも今出しても、インフレで今の値段がかなり上がっているんで、どちらかというとその割合を出した方がいいかもしれないし、もう少し産業にどういう風に効果が出るかということを表す指標も大事だと思う。
- 例えばホテルの稼働率は広島県はかなり高いが、市内とか宮島以外は、ホテルの稼働率や宿泊業の給料が低いので、その伸びが他の産業に比べて高くなったとか、それを産業の状況を把握する指標を入れた方が、本当に効果が分かるのかなという気がする。

(委員)

- 東広島と呉と竹原で顧客調査をする中で、非常に印象的なのが、3市とも共通するのが観光で来るというよりも、ビジネスで来られる方が大半。東広島市に関しては、ビジネスだけでもホテルの稼働が9割以上となってる。ビジネスのお客さんもやはりせっかく泊まるんだから、やはり少し飲み食いで楽しいところに行ってみたいねとか、多分そういうことかなと思う。
- いずれにしても一番言いたいのは、観光を受け入れる、あるいはビジネスでお客様に来ていただけたところが、県民が豊かになって、若い人や女性の雇用が生まれ、生活している人も、オーバーツリズに悩ませることされることなく生活を送って、ここに住みたいと思う人がたくさんいるような状況を目指すべきじゃないかなと思う。

(会長)

- 確かにそこに仕事があって、そこで生活ができるっていうところがあって、究極の目的なのかもしれない。

(委員)

- 指標を設定する中で、インバウンドの数字とかもあるが、観光消費額をあげるには、そこに働く観光人材を増やさないと、今の数字からさらに何パーセント上げるということではできないため、やはり雇用を増やすことを将来の計画の中に入れるべきではないかと思う。

- 人材が不足することによって、当然受け入れたいけど受け入れられない、という現象が発生してきつつある。ホテルでも普段であれば宴会はできるものが宴会ができないとか、今の時点でもまだ観光人材の不足ということなので、業種の種類はたくさんあると思うが、この5年後の計画を決めるときに、まずは観光消費額が表に立つのであれば、やはりそれと並行して観光人材を増やしていく、あるいは、平均よりも少ないというのもあるため、観光に携わる皆様の給与体系を上げていく、その辺が重要かと思う。

(会長)

- 観光人材というのは、宿泊業と飲食業ということか。

(委員)

- 宿泊、飲食、バスなどの交通関係、お土産屋などがあると思う。特に今バス関係も毎日のように運転手を募集しようとして各バス会社が発信しているし、航空の関係も、多くは広島空港で観光客を受け入れるためのスタッフも不足している。観光を呼んでくる旅行会社の人材も今不足している。
- コロナになり、各観光業の方が辞められた後に、ほとんどの方が他の業種に移って、戻ってきていない。それはなぜかという、待遇等がいいから。これは全国的にも問題になっており、やはりこういう業界の皆さんもいらっしゃるの、真剣に考えてみるということが必要。
- まず受入体制を整備しないと、100人呼んでいきたいものが50人で精一杯という形になってしまうので、その辺を少し長期の目で皆さんで考えられたらいいと思う。

7 会議の資料名一覧

【資料】次期ひろしま観光立県推進基本計画骨子案作成に向けた検討資料

【参考資料】ひろしま観光立県推進計画策定ワーキング部会の主な意見

令和8年度第2回広島県観光立県推進会議 出席者名簿

日時: 令和8年7月31日(金)16時～17時

区分	所属	職	氏名	出欠状況	代理
会長	広島県	知事	横田 美香	出席	
県議会議員 (2人)	広島県議会	議員	吉井 清介	出席	
	広島県議会	議員	窪田 泰久	出席	
市町の長 (2人)	江田島市	市長	土手 三生	代理出席 (WEB)	江田島市産業部 部長 佐野 数博
	世羅町	町長	奥田 正和	出席 (WEB)	
観光事業者 (3人)	西日本旅客鉄道株式会社中国統括本部広島支社	支社長	飯田 稔督	出席	
	西日本高速道路株式会社中国支社	支社長	本園 民雄	代理出席 (WEB)	副支社長 澤田 勤
	日本航空株式会社広島支店	支店長	阪口 智弘	代理出席	マネージャー 嶽 昭彦
観光関係団体 の長(11人)	(一社)広島県観光連盟	会長	佐々木 茂喜	代理出席	事業本部長 山本 栄典
	(公財)広島観光コンベンションビューロー	理事長	松藤 研介	代理出席	専務理事 市岡 泰三
	広島県商工会議所連合会	会頭	松藤 研介	代理出席 (WEB)	業務推進部長 奥野 泰識
	広島県商工会連合会	会長	平田 圭司	代理出席 (WEB)	経営支援部 部長 山崎 一成
	広島経済同友会	代表幹事	小田 宏史	欠席	
	(公社)広島県バス協会	会長	仮井 康裕	代理出席	専務理事 赤木 康秀
	広島県旅客船協会	会長	弓場 丞	出席	
	(一社)日本旅行業協会中四国支部	支部長	西尾 一輝	代理出席	事務局長 橋村 秀樹
	広島県ホテル旅館生活衛生同業組合	理事長	有本 隆哉	出席	
	(一社)日本ホテル協会中国四国支部	支部長	室 敏幸	代理出席 (WEB)	事務局長 山脇 健史
	広島県飲食業生活衛生同業組合	理事長	千玉 敏之	欠席	
学識経験者 (2人)	広島大学大学院	特命教授	フンク カロリン	出席	
	安田女子大学	教授	戸井 佳奈子	出席	
関係行政機関 (4人)	中国運輸局	観光部長	東根 宏如	代理出席	観光部 次長 石田 剛史
	中国経済産業局	産業部長	阿比留 彩子	出席 (WEB)	
	中国地方整備局	企画部長	吉岡 大蔵	代理出席	企画部 事業調整官 守山 和彦
	広島県商工労働局	局長	梅田 泰生	代理出席	地域経済支援担当部長 山崎 真紀
その他知事が 必要と認めるもの (3人)	(一社)ひろしま通訳・ガイド協会	会長	畝崎 雅子	出席	
	広島県観光ボランティアガイド協議会	会長	徳永 京子	出席	
	(公社)日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会	会長	小池 雄大	出席 (WEB)	
計	委員数28人 【 出席者26人(内 代理出席13人)、欠席者2人 】				

※順不同、敬称略

令和8年度第2回広島県観光立県推進会議 出席者名簿

日時: 令和8年7月31日(金)16時～17時

区分	所属	職	氏名	出欠状況	代理
会長	広島県	知事	横田 美香	出席	
県議会議員 (2人)	広島県議会	議員	吉井 清介	出席	
	広島県議会	議員	窪田 泰久	出席	
市町の長 (2人)	江田島市	市長	土手 三生	代理出席 (WEB)	江田島市産業部 部長 佐野 数博
	世羅町	町長	奥田 正和	出席 (WEB)	
観光事業者 (3人)	西日本旅客鉄道株式会社中国統括本部広島支社	支社長	飯田 稔督	出席	
	西日本高速道路株式会社中国支社	支社長	本園 民雄	代理出席 (WEB)	副支社長 澤田 勤
	日本航空株式会社広島支店	支店長	阪口 智弘	代理出席	マネージャー 嶽 昭彦
観光関係団体 の長(11人)	(一社)広島県観光連盟	会長	佐々木 茂喜	代理出席	事業本部長 山本 栄典
	(公財)広島観光コンベンションビューロー	理事長	松藤 研介	代理出席	専務理事 市岡 泰三
	広島県商工会議所連合会	会頭	松藤 研介	代理出席 (WEB)	業務推進部長 奥野 泰識
	広島県商工会連合会	会長	平田 圭司	代理出席 (WEB)	経営支援部 部長 山崎 一成
	広島経済同友会	代表幹事	小田 宏史	欠席	
	(公社)広島県バス協会	会長	仮井 康裕	代理出席	専務理事 赤木 康秀
	広島県旅客船協会	会長	弓場 丞	出席	
	(一社)日本旅行業協会中四国支部	支部長	西尾 一輝	代理出席	事務局長 橋村 秀樹
	広島県ホテル旅館生活衛生同業組合	理事長	有本 隆哉	出席	
	(一社)日本ホテル協会中国四国支部	支部長	室 敏幸	代理出席 (WEB)	事務局長 山脇 健史
	広島県飲食業生活衛生同業組合	理事長	千玉 敏之	欠席	
学識経験者 (2人)	広島大学大学院	特命教授	フンク カロリン	出席	
	安田女子大学	教授	戸井 佳奈子	出席	
関係行政機関 (4人)	中国運輸局	観光部長	東根 宏如	代理出席	観光部 次長 石田 剛史
	中国経済産業局	産業部長	阿比留 彩子	出席 (WEB)	
	中国地方整備局	企画部長	吉岡 大蔵	代理出席	企画部 事業調整官 守山 和彦
	広島県商工労働局	局長	梅田 泰生	代理出席	地域経済支援担当部長 山崎 真紀
その他知事が 必要と認めるもの (3人)	(一社)ひろしま通訳・ガイド協会	会長	畝崎 雅子	出席	
	広島県観光ボランティアガイド協議会	会長	徳永 京子	出席	
	(公社)日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会	会長	小池 雄大	出席 (WEB)	
計	委員数28人 【 出席者26人(内 代理出席13人)、欠席者2人 】				

※順不同、敬称略